応募書類【B. 実践報告書】に記載する内容との書き方例　（第5回コンクールリーフレットより）

「学校図書館を活用した授業実践をまとめよう！～情報活用授業コンクールに応募しよう」
（『学校図書館』2022 年 9 月号より）を加筆修正
※SLA サイトにも掲載

●お問合せは、
全国学校図書館協議会研究調査部へ　kenkyu@j-sla.or.jp

●応募要項、応募書類ダウンロード、応募書類の書き方など詳しくは、
全国学校図書館協議会 Web サイトへ
https://www.j-sla.or.jp/contest/jouhoukatsuyoujugyou-top.html

評価ポイント①
学習のねらい、指導計画が適切であるか

評価ポイント②
学習展開に即した資料・情報の活用であったか

評価ポイント③
ねらいに即した成果・課題がまとめられているか

実践報告書　（＊5）　　応募者【　＊＊＊＊　】

⑴指導計画…
①設定のねらい、理由　（＊6）
○「扇の的」の内容をもう一度読み込んで自分なりに考える。
○全国紙、地方紙、業界紙など、立場が違えば評価や書き方も変わることに注目し、情報の意義や価値は多面的であることを考える。
②児童生徒の実態　（＊7）

③指導計画【全３時間】（＊8）
平家物語の学習の後、３時間扱いで設定。
第１時　号外の構成や見出しなど、新聞記者からのレクチャー内容を指導。
　　全国紙・地方紙・業界紙など立場を決めて、作成する新聞の名前を考える。
第２時　資料を参考に下書きをする（記事を考える。写真のかわりに絵を描く）。
第３時　グループ内で意見交換、修正して清書。　→　後日掲示して発表。
④事前打ち合わせ　（＊9）
授業者と司書教諭……号外の作り方など説明、フォーマットの提供、新聞社との橋渡し、いろいろな地方紙・業界紙の展示や、題字（新聞の名前）の紹介を提案。
司書教諭と学校司書…授業者の意図や流れ、必要とする資料を確認。
学校司書と授業者……用意した資料・情報を確認し、提供のタイミングを相談。
⑤資料・情報の選択・収集など　（＊10）
学校司書……図書資料、新聞号外の実物、Webサイトの紹介（新聞社のサイト内の号外、NIEのサイトにおける号外説明、当時の社会や歴史的人物の肖像画などのサイト）。
司書教諭……新聞記者からのレクチャー内容を印刷して配布、号外フォーマットの作成、新聞協会加盟の新聞社一覧を題字の参考として提示。

⑵実践記録…　（＊11）
第１時…初めに以下の説明をした。
○実際の号外を集めておき提示。１人１台端末を使いWebサイトで各新聞社の号外やNIEのサイトでの号外の説明も参考に見せた。
○号外の作り方は、司書教諭が仲介し新聞記者のレクチャーをまとめたものを配布。
○５Ｗ１Ｈの書き方や見出しの表現の工夫も指導。
○参考資料を見て「○○新聞」以外の名前も多いことを確認、新聞名を考えさせる。

第２時…グループでの意見交換では、アドバイスのポイントを例示しておいた。
第３時…完成後、作品を廊下に掲示し、付箋で感想交換を行った。
　　→生徒作品は最後に参考資料として添付。

⑶成果・課題…　（＊12）
○作品を作るために教科書やこの時代の資料を何度も読み直したことで、平家物語の理解も深まった。
○多様な資料を使い、調べたりまとめたりすることができた。
○平家側、源氏側、与一の故郷の地方紙、瀬戸内海の漁協の業界紙、弓の製作会社などいろいろな立場の新聞を作成したので、それを見せ合うことで立場が変われば記事内容が変わることを実感し、情報に向き合う姿勢について考えることができた。
○また、作品を見た社会科教員が歴史新聞を夏休みの課題に出すなど、他教科への広がりも生まれた。

①その他　（＊13）

＊印の
アドバイス・ポイント
を参考に、まとめてみましょう！

（＊5）
●「実践報告書」は８ページ以内。実践したことを十分に説明できる枚数でまとめよう。
● 必要に応じて写真やワークシートなどを入れることもできる。８ページに入らない場合は、添付資料（20点以内）とする。

（＊6）
● ねらいが明確だと、それに対応して指導の手立てがきめ細かく検討・実施される。
● 成果と課題が、ねらいに対応して記述されているか確認しよう。

（＊7）
● 児童生徒の実態が明確に把握されていると、指導の手立てがきめ細かく検討・実施できる。
● 成果と課題が、ねらいや児童生徒の実態に対応して記述されているか確認しよう。

（＊8）
● 新聞社や博物館など、外部機関との連携も視野に入れておくとよい。

（＊9）
● 事前打ち合わせは、誰といつ、何について打ち合わせをしたかを記述する。
● 資料や情報の選択・収集は、実物や印刷体の図書・雑誌・新聞等、デジタル体の資料やデータベースなど、多様な種類、多様なメディアを念頭において、ねらいをよく確認しながら相談しよう。

（＊10）
● 図書資料だけでなく、新聞も学校図書館の資料である。授業展開の可能性を視野に入れて、日ごろから新聞や号外を資料として保存しておくことも必要である。新聞社やNIE推進協議会に入手方法の相談もできるだろう。
● 複数の情報源を使う場合が多いが、授業のねらいによっては、例えばインタビューを行ったり、印刷体の絵本のみを使ったりする場合もあることに留意しよう。

（＊11）
● 資料や児童生徒の活動などの写真があると授業の流れがよく見える。
● 配布資料や号外フォーマットなどのワークシート等も資料として添付するとわかりやすい。
● 実践について、次のような観点にも留意して記述してみよう。
●（学習のねらい、指導計画が適切であるか
●（学習の展開に即した資料・情報の活用であったか
●（成果・課題
● 外部の方からのレクチャーは、ICT担当との協働で、オンラインで行うなど、指導方法もICT利用を含めて多様化している。

（＊12）
● 児童生徒の事前事後の変化がわかるように、感想やアンケート結果などもあるとよい。

（＊13）
●実践報告を補足することを記述する。応募者の立場によっても記述内容は多岐にわたる。
●児童生徒の作品をデジタル保存し、タブレット端末で発表・感想交換をすることもできる。また保存することで次年度にも役立てることができる（個人情報や著作権等への配慮が必要）。
●実践を振り返ることで、自校所蔵の資料の鮮度や不足等の現状・課題に気がつく場合も多い。

【キハラ賞】
キハラ株式会社　特製
オリジナルブックトラック
※第 2 回コンクールの例